

平成 19 年度後期岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程入学試験問題

講 座	法政理論、比較国際法政、 公共法政、司法政策
専門科目	民法

以下の各問に答えなさい。

- 【1】 Aは、骨董好きの父を単独相続し、その遺品を整理していたところ、備前焼の壺（甲）を見つけた。Aは、とりたてて骨董品に興味はなかったが、甲がちょうどよい大きさだったことから、玄関に置いて、傘立てとして利用していた。美術品・骨董品を展示するギャラリーを経営しているBは、A宅を訪れた際、一目で甲を気に入った。甲と同じくらいの大きさの備前焼の壺の相場は、10万円であるが、Bは、ひよっとすると有名な作家によるものかもしれないと考え、30万円での購入を申し出たところ、Aは、これを承諾した。甲を買い受けたBが、専門家に鑑定を依頼したところ、甲は、人間国宝の作であり、300万円の価値があることが判明した。
- Bが自らのギャラリーに甲を展示していたところ、ギャラリーを訪れたCは、甲を気に入り、BC間で甲を300万円で売買する契約が締結された。Cは、100万円をその場で支払い、残額は、一週間後にBが甲をC宅に届けた際に支払うことで、BC間で合意がなされた。その翌日、DがBのギャラリーを訪れ、500万円支払うので、甲をぜひ売ってくれるように懇願した。Bは、Dの頼みを断りきれず、甲をDに売却することを承諾した。Dは、代金を支払い、甲を持ち帰った。

ABCDの法律関係は、どのようなものか。

- 【2】 現代の日本法の下で、信義則の果たしている重要な機能のうち二つを取りあげて、それが問題となる局面の具体例を示しつつ、説明しなさい。

以上